

1 単元名 ボールゲーム「テニピン」 ～コロコロテニピンでラリーをつづけよう～

2 単元の目標

- テニピンの行き方を知るとともに、用具を使ってボールを返球したり、ボールを打ちやすい場所に体を動かしたりして、易しいゲームをすることができる。

(知識及び技能)

- ラリーを続けるために、ボールを打ち返す方法や打ちやすい場所などについて考えるとともに、考えたことを伝えることができる。

(思考力、判断力、表現力等)

- 練習やゲームに進んで取り組み、ルールを守り、友達と仲良く運動したり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気をつけたりすることができる。

(学びに向かう力、人間性等)

3 授業の実際

【視点①】なりたいた姿をイメージし、自他の課題や変容の自覚を促す「単元構成と授業構成」の追求

テニピンを知らない児童が多かったため、映像や写真を見てイメージを持つところから始めた。児童は「楽しそう。」「やってみたい。」「ラリーを続けられるようになりたい。」などとテニピンに意欲的だった。実際にラケットをつけてテニピンをしてみると、ボールがラケットに当たらなかつたり、相手に向かってボールを返すことができなかつたりする姿が見られた。児童の姿や、昨年度の本校の実践から、得点をねらうことをゴールとすることが難しいと考え、ボールを床にコロコロと転がして行うラリーゲーム（ラリーの回数を増やすこと）をゴールとした。



【視点②】なりたいた姿に向かう「基礎感覚や基本技能を高めていくための手立て」の追求

全4時間の単元のうち、1時間目は、イメージをもったり、実際にやってみたり、なりたいた姿を考えたりした。2時間目からは、授業の導入にペアでコロコロラリーを行ったり、7人ずつのグループで交代しながらラリーを続けるスキルアップタイムを取り入れたりした。

コロコロラリーでは、「友だちが返しやすいのってどんなボールかな。」と問いかけると、「まっすぐのボール。」「速すぎると返せない。」など、ボールを打ち返す際のボールの向きや力の強さがラリーをする上で重要であると気付いていた。また、上手にラリーが続いているペアを紹介すると、ボールが転がってくる場所に動いて打ち返すことも重要であることを見つけて、それらのことを意識して練習を繰り返す様子が見られた。





スキルアップタイムでは、7人のグループで交代しながらラリーを続ける練習をした。ラリーをより長く続けるために、相手が打ちやすいところへボールを返す動きや、自分が打ち返したら、次の児童がボールを打ちやすいようにスペースを空けるよう声をかけた。はじめは、自分がボールを打つことしかできず、相手が返しやすいボールを意識することが難しかったが、繰り返し練習することで、落ち着いてボールの前に動き、相手に向かってちょうどよい力加減でボールを返すことができる児童が増えてきた。

3時間目、4時間目には、コロコロゲームやスキルアップタイムに加えて、2対2で行うラリーゲームも取り入れた。はじめは、交互に打つということが難しく、なかなかラリーを続けられなかったが、慣れてくると、自分が打つだけでなく、相手の打ち返しやすいところを考えて、そこを狙ってボールを返す児童も見られた。3時間目と4時間目を比べると、4つのグループがそれぞれラリーの回数を増やすことができた。



【視点③】なりたい姿に近づくための「主体的・対話的で深い学び」の追求

毎時間、前回のふり返りやワークシートに書いた自分のなりたい姿を確認してから授業を始めた。ラリーを続けるためのコツなどの話し合いは難しかったため、活動の様子を見ながら全体やグループごとに集めて上手な児童を紹介したり、どうしたら上手にできるか問いかけたりした。

4 成果と課題

○成果

- ・ ペアで交互にボールを打ち合うので、全員がボールを打つことができ、運動量を確保することができた。
- ・ コロコロゲーム、スキルアップタイム、ラリーゲームと段階を踏んでいくことで、「できるようになった」と児童が実感し、達成感を味わうことができた。
- ・ ワークシートを用意することで、自分のなりたい姿を毎時間意識したり、ふり返りを次時にいかしたりすることができた。

●課題

- ・ ボールを相手に向かってまっすぐ転がすことや、転がすときの力加減を調節するなど、上手にできる児童とそうでない児童の差があったので、他の単元や本単元の中でさまざまな大きさのボールを使って転がしたり投げたりする活動を取り入れるとよいのではと考える。
- ・ 2対2でラリーゲームをするためには、交互に打つことや打ったら避けてペアの児童が打ちやすいようスペースを空けることなど、様々なことを意識する必要があり、4時間の単元構成では時間が足りなかった。各校の実態もあるが、時数が7～8時間あると、ボールを扱う基礎感覚を養うことができ、2対2のラリーゲームの回数を増やすことができるのではないかと考える。